**通級指導教室と在籍学級との連携シート**

**連携型個別の指導計画（試案）　　【記入例（ＬＤ等通級指導教室の場合）】**

**対象児童・生徒　　　　年　名前**

**通級指導教室　　　　　学校（担当：　　　　　　）/原籍校　　　　学校（担任：　　　　　　　）**

|  |
| --- |
| 実態（検査結果，医療との連携，《主訴》生活上・学習上の状況等）  WISC-Ⅳ（H30.2.16）VCI　PRI WMI　PSI  ・言葉の数は多いが，抽象的なことを理解したり，推理したりするのが苦手である。見通しがもちにくい。  ・友と遊ぶときやゲームをするときには，自分のルールで遊ぼうとするのでトラブルになりやすい。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 目標（前期・期）　※通級と在籍学級が共通 | 本人の願い・保護者の願い |
| ・イライラしないで友と楽しく遊びたい。体育の時はみんなと協力して最後までやりたい。（本人）  ・みんなと仲良く一日を過ごしてほしい。（保護者） |
| ・ゲーム（体育やSST）では，みんなの話を聞いたり，ルールを守ったりして最後まで活動する。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 通級指導教室における指導目標 | 在籍学級における指導目標 |
| ・教師や友が話しているときは静かに待てる。  ・ルールや活動に見通しをもって活動する。 | ・教師や友が話しているときは静かに待てる。  ・ルールや活動に見通しをもって活動する。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 通級指導教室における指導内容 | 在籍学級における指導内容 |
| ・社会性を高めるグループSSTを実施する。  ・グループSSTの中で毎時間，「話すのは一人だけ」というルールを守れるようにする。 | ・話したいときには手を挙げて発言をする。  ・みんなで決めたルールを守って活動する。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 通級指導教室における具体的な支援と配慮点 | 在籍学級における具体的な支援と配慮点 |
| ・「話すのは一人だけ」と書いた紙を黒板に提示し，  授業の初めに確認する。  ・活動のルールや活動内容を職員が演示をしてみせ  る。演示の中で本人が気づいたルールや活動のやり  方について発表する機会を設け，発表内容を黒板に  提示をして確認する。 | ・通級で使っている「話すのは一人」，「話したいときは手を挙げる」と書いた紙（絵）を授業の始めに確認する。手を挙げたら発言する機会を設ける。  ・ルールの書いた紙を提示する。活動の内容は演示をしたり，映像を見せたりして確認する。 |

|  |
| --- |
| 在籍学級で必要とされる合理的配慮　　本人，保護者の意見　　※　合意形成を図る |
| ・やることやルールは，視覚的に分かるように提示をする。  ・クラスのルールや活動内容は，個別に確認したり，質問の時間を設定したりする。 |

|  |
| --- |
| 評価（育ちの姿） |
| ・通級教室で，通級担当と一緒に通級用とクラス用の「話すのは一人だけ」「話したいときは手を挙げる」と書いた紙を作成しました。通級のグループSSTの授業で練習したことにより，クラスでも話したいときにスッと手を挙げて発言する姿が増えています。  ・体育の授業の最初に教師が演示，見本を示すことで，やることをしっかり理解して活動に取り組みました。友と最後まで活動でき，終わった後は「楽しかった」とにこにこしました。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 通級指導教室の今後の方向・来年度への引継ぎ | 在籍学級の今後の方向・来年度の引継ぎ |
| ・クループSSTを継続する。  ・見通しがもてるように手順表の作成の仕方と困ったときに「教えてほしいこと」の伝え方の練習をする。 | ・今までの支援の継続に加えて，通級で作成した自分専用の手順表を活用する。 |